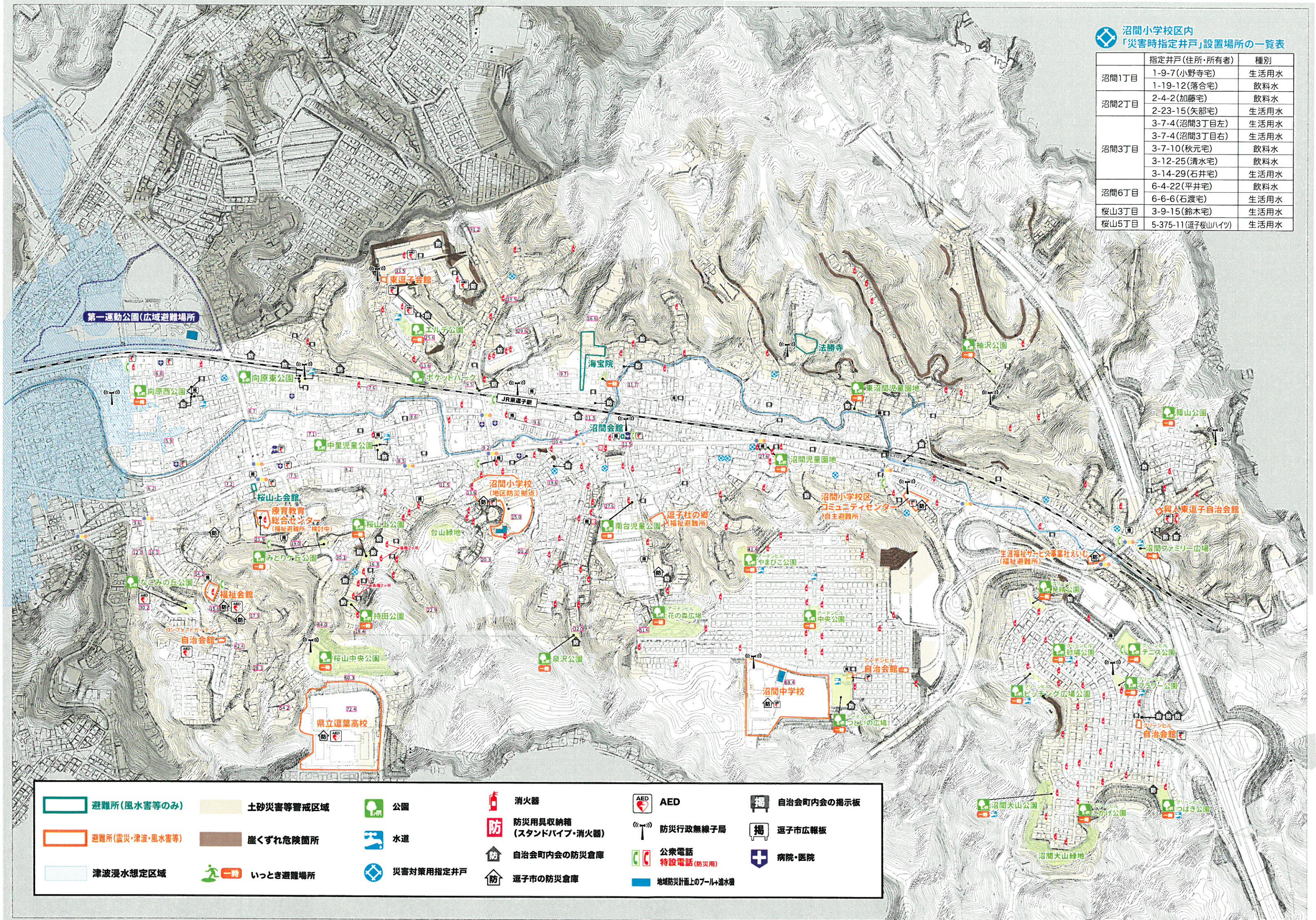


	指定井戸(住所・所有者)	種別
沼間1丁目	1-9-7(小野寺宅)	生活用水
	1-19-12(落合宅)	飲料水
沼間2丁目	2-4-2(加藤宅)	飲料水
	2-23-15(矢部宅)	生活用水
沼間3丁目	3-7-4(沼間3丁目左)	生活用水
	3-7-4(沼間3丁目右)	生活用水
	3-7-10(秋元宅)	飲料水
	3-12-25(清水宅)	飲料水
	3-14-29(石井宅)	生活用水
沼間6丁目	6-4-22(平井宅)	飲料水
	6-6-6(石渡宅)	生活用水
桜山3丁目	3-9-15(鈴木宅)	生活用水
桜山5丁目	5-375-11(逗子桜山ハイツ)	生活用水



沼間小学校区防災施設マップ

その目的とは

沼間小学校区における消防の防災・救護体制は、市内の他地域と比べ脆弱と言わざるを得ません。小規模な火災であれば、消防の現体制でも不足はありませんが、一旦、大規模災害にみまわれた際、消防署・分署整備指針エリア1.5km範囲外に位置する沼間小学校区は、電柱や家屋の倒壊、崖やトンネルの崩壊により、他地域から孤立化する恐れが指摘されています(↓下図)。

また、津波災害等で市役所と消防本部が機能しなくなった際、第3次災害対策本部としての機能を沼間コミュニティセンターが担うことから、沼間小学校区の防災・救護体制の強化・充実が全市的な課題でもあります。このような背景から、地域独自の体制を急ぎ強化するため、その一助となるツール「防災施設マップ」を作成しました。

全市対象の津波災害・土砂災害・風水害の各ハザードマップが既に各戸配布されていますが、防災施設(避難所、公園、消火器、井戸、防災倉庫ほか)の全てが一面に記載されたものは市でも用意がなく、加え、沼間小学校区に特化したことで、よりリアルで詳細な防災対策に寄与することを目指しました。

この防災施設マップを地域で、ご家庭でご活用いただき、防災環境の一層の充実と防災意識の向上を図って頂きたいと願います。

尚、このマップは沼間小学校区全体を網羅しましたが、各自治会・町内会スケールのもの(地域を拡大したA3版)もご用意し、各会に原図をお渡ししています。こちら併用して、安心安全のまちづくりを私たち自ら進めて参りましょう

2016年3月
沼間小学校区地域連合会
防災施設マップ作成プロジェクトチーム

沼間地区の防災・救護体制の空白

平成25年度消防署等の配置
●消防署・分署・分遣所・派遣所
※円の大きさは半径1.5km (整備指針)

消防の三浦半島広域連携を検討しましたが、逗子は参画を断念。沼間小学校区の防災・救護体制の空白は、解決できていません。大地震による崖地やトンネルの崩壊等で道路が寸断され、他市、他地域から孤立することを想定し、市民自らによる防災・救護体制を特別強化する必要があります。



自助とは？

自分で自身や家族・財産を守ることが防災対策の基本です。その行動を自助(じじょ)と呼びます。人間は、誰も実際に災害に会うまで、被害者になるとは思っていません。自分の命が助かることを前提に考えたりします。災害を自身の危機としてリアルに考えてみて下さい。



共助とは？

各地域で地域防災組織を立ち上げ、防災訓練などを実施していますが、これが災害時に機能するかどうかは、日頃の人と人との関係が重要です。そのた沼間小学校区では、区内様々な団体の皆さんと共に、地域での交流「顔の見える化」を進めています。大規模災害では、警察・消防などが到着するまで、地域での助け合いが必要です。被災直後の公的な支援は皆無であり、その限界を補うのが、共助(きょうじょ)の考え方です。共助では、「初期消火活動」や「初期救出活動」を扱います。

公助とは？

警察、消防、市、県などの行政機関、電気・ガス・水道など生活基盤を担う公益企業が、災害支援活動することを公助(こうじょ)と呼びます。大規模な復旧・復興には、公助は不可欠ですが、多くの場合、それらの機関の人々もやはり被災者であり、被災状況によっては災害支援活動を開始するまでに時間を要します。被災した直後の人命救助については3時間、その他については3日間を公助によって被害を減らし、公助を待ちます。

大地震の時

地震発生

- 自宅で生活できなくなったとき
- 建物倒壊・火災の拡大等により危険になったとき
- 避難勧告・避難指示があったとき

避難開始

- 一時避難場所(近くの公園や学校・寺院など)
- 安全確保のために一時的に避難する場所
- 広域避難場所(大きな公園・緑地など)
- 大火災などの広域的な被害から避難する場所

自宅で生活できないとき

- 避難所(近くの市立小・中・高等学校など※)
- 一時的に生活できる場所

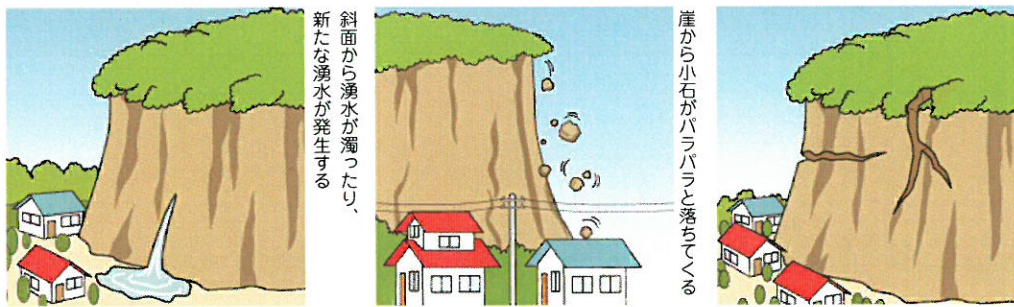
自宅

- 危険がなくなったとき
- 避難所で生活する必要がなくなったとき

- ※医療救護所の開設
沼間小学校に設置されます。怪我人の一時的な応急処置、搬送、トリアージなどを行います。
- お住いの地域の災害リスクは、各種ハザードマップ(土砂災害・風水害等)をご確認ください。※市のHPから「ハザードマップ」で検索するか、各市役所で配布しています。
- 避難経路については、あらかじめ崖の付近などを避けるような、安全なルートを確認・数回検討してください。

崖崩れの前兆現象

- ・沼間地区は崖崩れの災害リスクが大変高い地区です。地震にも風雨にも誘発される。
- ・崖崩れは、地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、急激に斜面が崩れ落ちることを言います。
- ・崖崩れは、突然起きるため、多くの被害を生みますが、その前兆を見逃さないよう注意しましょう



風水害の時

避難に関する情報

避難準備情報

お年寄りの方や体の不自由な方など、避難に時間を要する方が、安全に避難するための情報です。
・自主避難所が開設されます

避難勧告

災害の発生が予想される地域の方に対し、避難を勧めるものです。対象の方は落ち着いて避難を開始してください。
・避難所の開設もありえます

避難指示

避難勧告よりも強く避難を求めるものです。対象の地域の方はただちに避難してください。
・避難所が開設されます

状況に応じた避難行動

- 安全な場所への移動
避難所や高台、土砂災害警戒区域外の知人の家などに移動します。
 - 近隣の高い建物等へ移動
近くの頑丈な建物の2階以上や、高い建物のなるべく上階に移動します。
 - 屋内の安全な場所への避難
屋外への避難がかえって危険なときは、崖とは反対側で、なるべく高い階の部屋などに避難します。
- 避難所への移動だけでなく、これら全ての行動が避難行動です。

沼間小学校区内の避難所・避難場所一覧表

～逗子市地域防災計画(平成26年度改訂版)より作成～

【地区防災拠点】沼間小学校*1 【広域避難場所】逗子中・逗子高校庭及び付近一帯*2 第一運動公園*2

区 域	避難所および災害区分ごとの避難先					一時避難場所*
	建物(避難所)*3	収容人員	震災時	風水害等	津波一時	
桜 山	3丁目					向原西公園☆
	4丁目					向原東公園☆
						中里児童公園☆
	桜山上会館	40		○		桜山上公園
	県立逗葉高校	2,149	●	○	●	桜山中央公園
5丁目	福祉会館	187		○	●	みどりヶ丘公園
	療育教育総合センター*4	未定	未定	未定	未定	持田公園
	逗子桜山3Fオートゲージ自治会館	31	●	○	●	なごみの丘公園
沼 間	1丁目	沼間小学校 1,470 沼間会館 100 逗子杜の郷*4 30	● ○ ●*4	○ ○ ○*4	● ○ ●*4	泉沢公園 南台児童公園 台山緑地☆
	2丁目	東逗子会館 32 海宝院 200	● ○	○ ○	● ○	エルデ公園
		沼間小学校コミュニティセンター*5 220 アーデンヒル自治会館 41 沼間中学校 1,650	● ○ ○	○ ○ ○	● ● ●	アーデンヒルやまびこ公園 アーデンヒル中央公園 アーデンヒルつどいの広場 アーデンヒル花の森公園 沼間児童園地
	4丁目	法勝寺 300		○		柚沢公園 東沼間児童園地☆
		生涯福祉サービス事業社 えいむ*4 50 グリーンヒル自治会館 43	●*4 ○	○*4 ○	●*4 ●	グリーンヒル見晴公園 グリーンヒルビッチング公園 グリーンヒル砂場公園 グリーンヒルフラワー公園 グリーンヒルテニス公園 グリーンヒルこかげ公園 グリーンヒルつばき公園 沼間大山公園 沼間大山緑地☆
	6丁目	興人東逗子自治会館 12	○	○	●	篠山公園 沼間ファミリー広場

●震災時の避難先 ○風水害等の避難先 ●津波時の一時避難先 ☆は指定外の公園等

「一時(いつとき)避難場所」とは* 建物+土地

地震の発生後、まだ広域避難場所へ行くほどでもないが、一応避難して火災の状況や風向などの周辺の様子を見るための場所、自宅付近の空地・学校・寺院・公園等が指定されます。また、市が指定するものばかりではなく、あらかじめ家族や地域で話し合っておくべきです。

地区防災拠点(沼間小学校)*1

- 市の災害対策本部の組織として現地の防災活動拠点となる場所。
- ①医療救護所が設置され医師会から派遣された医師等のもと、トリアージ及び医療機関への搬送手配や、軽・中等傷者に対する応急手当等を実施する。
- ②現地活動班として市職員が派遣され、消防、警察、自主防災組織等と協力し、被災者の救出救護・搬送、火災鎮圧、交通規制等の諸活動に当たる。

* 池子地区を含む

「広域避難場所」とは*2

地震発生に伴い火災が発生し、延焼拡大のおそれがある場合に、輻射熱(ふくしゃねつ)や煙から身体を確保するための避難場所です。このため、避難所のように、避難生活を送る位置付けはありません。
*2広域避難場所: 逗子中・逗子高校庭および付近一帯・沼間・池子全域対象 第一運動公園……桜山(1〜7丁目)と逗子・山の根全域対象

「避難所」とは*3

災害により被害を受けた人あるいは被害を受ける恐れがある人を一時的に収容、保護する場所です。主に学校や公民館などの建物を指定しています。一定期間の生活ができるよう、市内各施設等に設置してある防災倉庫などに必要物資が備蓄されています。また、屋内施設が指定されているため降雨などの心配が無いように考えられています。
*3風水害等の避難所: 桜山地区は上記の他に桜山7丁目(宗泰寺)、桜山8丁目(桜山下会館・郷土資料館)

「福祉避難所」とは*4

災害が生じた際、高齢者、障害者、乳幼児その他の特に配慮を要する方(要配慮者)の支援や滞在を目的とした避難所のことです。
*5療育教育総合センター、逗子杜の郷、生涯福祉サービス事業社えいむ・沼間小学校区分全域対象

自主避難所(沼間小学校区コミュニティセンター)*5

風水害等の災害時における避難準備情報の発令等に伴い、市民等が自ら避難する必要があると判断した場合に避難することができる施設です。
*4 沼間小学校区の全域対象

マップ作成により分かった課題

作成に当たり、市はもとより各自治会・町内会の全面的なご協力を得ました。各会から既存の資料を持ち寄り、地域を実際に歩いて再検証していただきました。地域自らマップ作成に加わり、検証し、他地域と比較することで、これまで見えなかった課題が抽出されました。

- 自治会・町内会の組織から漏れている(または入会を拒否している)一帯がある。
- 自治会は存在するが、活動の実態が市でも把握できていない所や、他所との交流に後ろ向きな地域がある。
- 線路を境に北側の地域(沼間2,4,6丁目)には市から消火器の支給があるが、南側の地域には支給されていない(桜山3,4,5丁目、沼間1,3,5丁目)。

- よって、消火器の設置がない地域がある一方、自治会の自助努力により、かえって設置が充実している地域もある。
- スタンドパイプ(消防しか使えない消火栓を、市民も消火活動に利用できる機材)の普及が進まない。
- 老朽化した防災倉庫の建て替えが、県の指導の厳格化により進まない状況。

(面積2㎡を超える建築物は、例えば公共利用の防災倉庫であっても確認申請が必要)
■沼間地区のほとんどが土砂災害指定されているため、地域住民から特に崩壊が懸念される崖をピンポイントで指摘してもらった。しかし、それをマップ上に記載すると、崖近くの住民からクレームを受けかねないことから、図示に至らなかった。実際に崩落している崖も多数ある中、注意喚起が出来なかったことは遺憾。